

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 51

George Benson【ジョージ・ベンソン】

～名ギタリストで名ヴォーカリスト&ジャズ・フュージョン界のスーパースター～



写真提供：ワーナーミュージック・ジャパン

Profile

1943年3月22日、米国ペンシルベニア州ピッツバーグのヒル地区で生まれ育つ。7歳の頃に地元の薬局の角でウクレレを弾きチップを稼ぎ、8歳の時には金曜日と土曜日の夜に無免許のナイトクラブでギターを演奏していた。10歳の時に“リトル・ジョージ”の名でNYのRCAビクター・スタジオでシングル「シー・メイクス・ミー・マッド」を初録音。63年にジャック・マクダフのバンドに加入。翌64年初リーダー・アルバム『ザ・ニュー・ボス・ギター・オブ・ジョージ・ベンソン』録音。60年代半ばにマイルス・デイヴィスに雇われ、68年のアルバム『マイルス・イン・ザ・スカイ』に参加。67年にヴァーヴ・レコードに移籍。クリード・テイラーが創設したCTIレコードと契約し、アルバムを録音。70年代後半にフュージョン系に転じる。76年にワーナー・ブラザーズ・レコードに移籍し、同年発表したトミー・リビュマのプロデュースによるアルバム『フリージン』が大ヒットを記録。同アルバムに収録の「マスカレード」でスキヤットを披露し、ヴォーカリストとして新境地を開くと共にグラミー賞「レコード・オブ・ジ・ヤー」を受賞。70年代後半から80年代にかけて、トミー・リビュマとのコラボでヒット曲を生み出し、ブラック・コンテンポラリーのアーティストとしても認知される。96年にGRPレコード、2006年にはコンコード・レコードのモンスター・ミュージックに移籍し、その後もコンスタントにアルバムを発表。2008年に「東京ジャズ2008」で久々の来日を果たし、賞禄と共に元気な姿を見せてくれた。これまで10個のグラミー賞を獲得。ハリウッド・ウォーク・オブ・フェームにも星型プレートと共にその名が刻まれている。74歳となった現在も現役で活躍中。

GB's Great Album

ここに紹介した3枚の作品以外にも、ジャズ〜フュージョン〜ブラック・コンテンポラリーと移り変わっていったそれぞれの時代に発表された名盤・名演が多く存在している。

セカンド・リーダー・アルバム



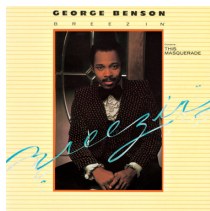
イツ・アップタウン ジョージ・ベンソン

(ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル: SICJ-33)

ジョージ・ベンソン (g), ロニー・キューバ (bs), ロニー・スミス (org), ジミー・ラヴレイズ、レイ・ルーカス (ds)

1. クロックワイズ 2. サマータイム 3. エイント・ザット・ペキュリアー 4. ジャガー 5. ウィロウ・ウィーブ・フォー・ミー (他、全16曲)

大ヒット・ナンバー「マスカレード」収録の歴史を変えた名アルバム



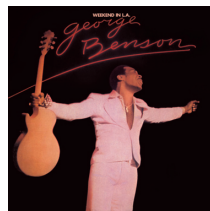
フリーズ ジョージ・ベンソン

(ワーナーミュージック・ジャパン: WPCR-75369)

ジョージ・ベンソン (g, vo), ジョルジュ・ダルト (p, clv), フィル・アップチャーチ (g), ロニー・フォスター (key), 他

1. フリーズ 2. マスカレード 3. シックス・トゥ・フォー 4. 私の主張 5. これが愛なの? 6. 愛するレディ

最高の瞬間を捉えた名ライブ盤



メロ〜なロスの週末 (ライブ) ジョージ・ベンソン

(ワーナーミュージック・ジャパン: WPCR-14499)

ジョージ・ベンソン (g, vo), フィル・アップチャーチ (g), ロニー・フォスター、ホルヘ・ダルト (key), スタンリー・バンクス (b), 他

1. メロ〜なロスの週末 2. オン・ブロードウェイ 3. ダウン・ヒア・オン・ザ・グラウンド 4. カリフォルニアの午睡 (他、全11曲)

1964年の初リーダー・アルバム『ザ・ニュー・ボス・ギター・オブ・ジョージ・ベンソン』はギタープレイのみだが、本作では「サマータイム」「ア・フォギー・デイ」「スト〜ウエザー」で自慢のヴォーカルを披露。後のギタリスト&ヴォーカリストとして一世風靡するベンソンの原点ともいえる作品。ジャケットに赤字で“今日のジャズシーンで最もエキサイティングな新進ギタリスト”と明記している程の自信作。
1966年録音。

1976年録音。トミー・リピューマのプロデュースによるワナー・ブラザース・レコード移籍第1弾アルバム。ビルボード・チャートのポップ、R&B、ジャズ部門で同時に1位に輝き、シングルカットされた「マスカレード」も大ヒットを記録。その結果、1977年の第19回グラミー賞でベンソンは最優秀インストルメンタル・パフォーマンス賞、ベンソンとトミー・リピューマは「マスカレード」によって最優秀レコード賞を受賞。正に歴史的名盤。

プロデュースはトミー・リピューマ。1曲目の「メロ〜なロスの週末」が臨場感が溢れ、哀愁と歌心溢れるベンソンのギターに感動させられる。1977年LAのロキシー・シアターでのライブ音源を収めたアルバムで「オン・ブロードウェイ」、ベンソンのヴォーカルが最高の「ダウン・ヒア・オン・ザ・グラウンド」、後にホットニー・ヒューストンが大ヒットさせた「愛は偉大なもの」、「我らのウェス」等、感動間違いなしの名盤。

マイルス・デイヴィスとの出会い

ジョージ・ベンソンのキャリアを語る上でマイルス・デイヴィスとの出会いも重要。マイルスがエレクトリック・サウンド&ギターの導入を始めたアルバムとして知られる1968年発表の『マイルス・イン・ザ・スカイ』。ベンソンは2曲目に収録されている「パラフェルナリア」1曲に参加。けてベンソンらしいギターとは言えないが、その後のマイルスが自身のバンドにギタリストを入れるきっかけにもなるインパクトのあるプレイを披露している。ハービー・ハンコックがエレキ・ピアノ、ロン・カーターもエレキ・ベースを弾いている点でも注目の作品。

名プロデューサー、トミー・リピューマ

ジャズ・ギタリストだったジョージ・ベンソンがヴォーカリストとして新境地を開き、グラミー賞も獲得するまでになり、ジャズ・フュージョン界のスーパースターとなり得たのは巨匠&名プロデューサー、トミー・リピューマとの出会いなくして有り得ないだろう。本誌では2012年にトミーさんがポール・マッカートニーのアルバム『キス・オン・ザ・ボトム』を手掛けた際に独占インタビューが実現（『Vol.28』に掲載）。そのトミーさんは2017年3月13日に80歳でこの世を去ったが、ベンソンの人生と歴史を変えた名盤を聴いてトミーさんを偲びたい。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.24 ~ Let's Get Lost [レッツ・ゲット・ロスト] ~

この曲は1943年制作の映画『ハッピー・ゴー・ラッキー』のために、フランク・レッサー（作詞）とジミー・マクヒュー（作詞）のコンビによって作られた楽曲。映画では主演役のメリー・マーティンが歌っている。ジャズ・シーンでこの曲の存在を知らしめたのはトランペッター&ヴォーカリストのチェット・ベイカーで、1955年に録音されて見事な歌唱が残され、その後1988年に制作されたチェットの自伝的ドキュメンタリー映画のタイトルにもなった。

★この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- チェット・ベイカー『チェット・ベイカー・シングス・アンド・プレイズ』
- テレンス・ブランチャード『レッツ・ゲット・ロスト〜ジミー・マクヒュー作品集』
- 伊藤アイク『ゼイ・セイ・イツ・スプリング』
- マット・ダスク『マイ・ファンシー・ヴァレンタイン』
- シリル・エイマー『レッツ・ゲット・ロスト』